事例5　学校行事を通して連帯感を育てた実践例　　E中学校

1. 実践の意図

学校行事は，多様なねらいと内容を含んだ創造的な活動であるとともに，全人的な人間形成に寄与する教育活動の一つである。

この教育的特質としては，学校生活をより豊かな充実したものにするとともに，多彩な内容を含んだ総合的・創造的な教育活動であることなどがあげられる。

さらに，このような特質をふまえながら，学校や生徒の実態に即して，様々な創意工夫を生かし，生徒が自主的に活動することによって，成就感や充実感を体験することを通して，連帯感を高めるなど，他の教育活動では得がたい教育的な意義をもっているともいえる。

学校行事を通して連帯感を育てるという本校の実践も，こうしたことを基本的な背景としたものである。

本研究の基本的な考え方は，学校行事は，学校が計画し実施する教育活動であることをふまえながら，何をどのようにするのか生徒自身が考え，決定し，実行するというように，生徒主体の活動を基本にすえ，実践を進めようとするものである。

本校の生徒は一般に，「自ら進んで，自分の所属する集団の向上を目指した，豊かな学校生活への工夫」が，不足しているように思われる。

具体的には，次のようなことがあげられる。

- 学習や生活に対する目的意識が乏しい。
  （何のために）
- 自己に対するきびしさがない。
  （苦しさに耐える）
- 勤労意欲や思いやりの心に欠ける。
  （協力し合う，助け合う）
- 集団生活の中で，目的達成へ向けての意識が低い。
  （自治的活動への連帯感）

以上のような実態をふまえ，連帯感の育成を図るためには，生徒一人一人が，その所属する集団の中で，相互信頼に基づいた望ましい人間関係を培い，集団に対する所属感を深め，同時に学校・学級生活への充実感を味わわせることなどが大切であると考える。

このことから，教育目標を受けて，「体験的学習を通して，自治集団を発展向上させる」ことを望ましい生徒像を目指す活動の視点とした。そして特に学校行事を中心に研究を進め，2年生では「登山」及び「集団宿泊学習」を実施した。これらの活動をさらに発展したものが3年生で実施する自主プランによる班別行動を取り入れた「修学旅行」である。この2年生から3年生と継続する一貫した集団活動を通して，連帯感の育成を図ろうとするものである。

2. 実践の視点

(1) 互いに協力し，助け合うことのできる雰囲気づくり　―楽しい仲間づくり―

(2) 自分の役割と責任の自覚
―所属感を高める―

(3) 自主的に計画し，実践できる手順と工夫
―所属集団の向上―

(4) 自主的な課題解決
― 成就感・充実感を味わう ―

3. 実践の方針

(1) 適切な援助・指導により，生徒自身が自発的・自治的な活動ができるようにする。

(2) 自主的に活動する体験を通して，実践力を高めるようにする。

(3) 教師と生徒，生徒相互の豊かな心のふれあいを基盤とした活動をする。

(4) 集団生活の中に自分の希望や意見が生かされ，互いに協力して課題解決に取り組めるようにする。